

※国際コミュニケーション特研は2単位まで修了要件単位として認められます

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
KA40A200		国際コミュニケーション A特研(Advanced Research in International Communication IA)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2			前期	月6	氏名 Chris White E-mail chris-white@oita-u.ac.jp 内線 6612											
授業の概要	This blended-learning course aims to develop students' abilities in English listening, presenting, discussing, and academic writing. A portion of the classes will be conducted via Zoom so students must have a laptop computer at all times. Students will be expected to take part in discussions, offer opinions, improve their academic writing, create a presentation, and take an online TOEIC exam.																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	Boost practical listening and note-taking skills																
目標2	Engage in speaking tasks																
目標3	Consolidate understanding of academic lectures																
目標4	Foster presentation skills																
目標5	Improve academic writing skills																
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 Orientation and placement quiz																	
2 Presentation basics (workshop)																	
3 Presentation basics (workshop)																	
4 Lecture - Mindsets, Locus of Control & Goal Setting																	
5 Discussion & TED Talk - The power of believing that you can improve																	
6 Discussion & Film I - Learning a Language																	
7 Lecture - Never too late to learn a second language																	
8 Discussion & TED Talk - World English Mania																	
9 Discussion & Film II - David Attenborough																	
10 Understanding and ideas BBC video I																	
11 Understanding and ideas BBC video II																	
12 Understanding and ideas BBC video III																	
13 Understanding and ideas BBC video IV																	
14 Understanding and ideas BBC video V																	
15 Final presentations																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	Extensive reading, peer consultation/evaluation, presentation rubric, critical analysis and discussion of a topic, forming and supporting opinions, task-based communicative activities.				工夫	Use of blended learning (Zoom/Moodle), foster ability to express opinions and discuss freely in English (pair/group)work.										
ラーニング	B:意見の表現・交換					その他の											
ラーニング	C:応用志向																
ラーニング	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	extensive reading, communication practice															
	事後	Extensive reading (150,000 words or approximately 20 minutes daily reading), logging work & quizzes moodle, participating in lectures via zoom and face-to-face (depending on Covid-19) developing a presentation, develop TOEIC skill and practicing academic writing techniques.															
教科書	Materials will be provided by teacher.																
参考書	Extensive readers (OXFORD Bookworms/Penguin Readers) located in the library. http://mreader.org/index.php (extensive reading website)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	Presentation	30%															
	Discussion/Lecture homework	30%															
	Extensive Reading	30%															
	Attendance	10%															
注意事項	Classes are also held online via Zoom. Absenteeism/Lateness is not acceptable.																
備考	開講曜限については、初回ガイダンス時に調整します。																
リンク	URL																

※国際コミュニケーション特研は2単位まで修了要件単位として認められます

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
KA40A206		国際コミュニケーションIC特研(Advanced Research in International Communication IC)						対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1	経済学研究科 博士前期	前期	月7	氏名 矢野 英子 E-mail yano-hideko@oita-u.ac.jp 内線 7725											
授業の概要	英語の論文(英語圏の文化、社会、教育などに関する)を購読し、表現や構成を学ぶとともに、論文として分析する。 英語と英語表現の周辺文化についての視野を広げる。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	英語の論文の語彙、表現、文がわかる。																
目標2	英語の論文の構造がわかる。																
目標3	英語の論文から情報を読み取ることができる。																
目標4	調べたことをまとめて発表する。																
目標5	英語でレポートを書く。																
目標6	自分の学習の進捗を把握し、計画的にレポートを進める。																
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	Introduction																
2	英語論文の構成																
3	英語論文の表現 1																
4	英語論文の表現 2																
5	英語論文1購読1																
6	英語論文1購読2																
7	英語論文1購読3																
8	英語論文1の分析とまとめ																
9	英語論文2購読1																
10	英語論文2購読2																
11	英語論文2購読3																
12	英語論文2の分析とまとめ																
13	英語論文3購読1																
14	英語論文3購読2																
15	英語論文3購読3																
ラーニング	A:知識の定着・確認	ペア、グループで確認、話し合うなど協働作業を通して理解を深める。				工夫	映像や視覚資料を使って理解を深める。										
	B:意見の表現・交換					その											
	C:応用志向					他											
	D:知識の活用・創造					の											
時間外学習の内容と時間の目安	準備	論文、関連資料を読んでくる。(15h)															
	事後	レポートをまとめていく(15h)															
	学修	発表の準備をする。(15h)															
教科書	授業の際に指示する。																
参考書	授業の際に指示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート1、2	45%															
	最終レポート	45%															
	平常点	10%															
注意事項	ペアやグループで話し合う活動にも積極的に参加できること。																
備考	授業形態は、状況に応じて決定する。 辞書を必ず持ってくること。																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	海外の大学、国内の他の教育機関（小学校、中学校、大学、私塾）での教育経験、福祉機関での勤務経験
実務経験を いかした教 育内容	それぞれの経験を学生の英語指導および授業内での学生指導に生かすことができる。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式												
		基礎法学(The Basic Jurisprudence)						対面												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	1	経済学研究科 博士前期	前期	木6	氏名 金 康浩 E-mail kimkangho@oita-u.ac.jp 内線 7717														
授業の概要	本講義は、法学の基礎を有さない学生が、大学院において法律関係科目を履修する際に最低限必要となる知識を修得することを目的としています。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
目標1 法の体系, 法解釈の基本, 判例・学説の関係を理解できる。																				
目標2 法学の主要な研究手法である比較法研究の位置付けを理解できる。																				
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 インTRODクシヨン																				
2 法の強制の諸形態																				
3 裁判と法源																				
4 制定法の種類と効力																				
5 制定法の解釈																				
6 私人による取決め・慣習																				
7 判例																				
8 司法制度・法律家																				
9 日米法における当事者適格(1)																				
10 日米法における当事者適格(2)																				
11 日米法における当事者適格(3)																				
12 日米法における行政機関による私的訴訟の援助(1)																				
13 日米法における行政機関による私的訴訟の援助(2)																				
14 日米法における損害賠償(1)																				
15 日米法における損害賠償(2)																				
ラーニング	A:知識の定着・確認	文献の輪読を行い, 受講生が相互に議論する機会を設ける。										工夫	その他							
	B:意見の表現・交換																			
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	各受講者は、担当する事項について事前に調査し、報告のためのレジュメを作成する必要があります。30時間。																		
	事後学修	復習。15時間。																		
教科書	田中英夫『実定法学入門〔第3版〕(オンデマンド版)』(東京大学出版会、2013)、田中英夫=竹内昭夫『法の実現における私人の役割』(東京大学出版会、1987)																			
参考書																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	報告の内容および議論への参加状況	100%																		
注意事項																				
備考																				
リンク	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KA40A205		日本の経済と経営(Japanese Economy and Management)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修(秋季入学者のみ)	2	秋季入学学生1年	経済学研究科	後期	月5	氏名 E-mail ymiya@oita-u.ac.jp 内線 7684												
授業の概要	秋季入学制度により入学した留学生を対象にして、日本経済や日本の経営に関する基礎的な知識や今日的な論点について理解を深めることをめざしている。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 日本経済の発展過程、特徴について理解する。																		
目標2 「日本の経営」とは何かを理解する。																		
目標3 今日の日本の経済や経営、地域に関する基本的論点を理解する。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 日本の経済発展(1)																		
3 日本の経済発展(2)																		
4 日本の経済発展(3)																		
5 日本の経済発展(4)																		
6 日本の経済発展(5)																		
7 中間指導																		
8 日本の企業経営																		
9 日本の流通機構																		
10 日本の地域(1)																		
11 日本の地域(2)																		
12 日本の地域(3)																		
13 日本の社会政策(1)																		
14 日本の社会政策(2)																		
15 キャリア形成支援																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	グループ討論、意見の全体共有					工夫	その他の										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	指定文献学習(5h)																
	事後	文献学習、レポート準備(5h)																
教科書	とくに指定しない。																	
参考書	授業のなかで適宜指示をする。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	レポート	100%																
注意事項	この授業は、秋季入学制度により入学した留学生を対象にしたものであり、秋季入学学生は必修である。春季(4月)に入学した留学生についても、履修することが望ましい。																	
備考	変更が生じる場合は随時お知らせします。																	
リンク																		
	URL																	

教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	キャリア形成支援についての課外講義を担当する非常勤講師は、研究科OBであり、職業安定行政に長らくかかわっている。
実務経験を いかした教 育内容	キャリア形成支援についての講義では、厚生労働省外郭団体の県組織のトップとして、近年の留学生グローバル人材への求人状況や、国内・県内における具体的な就職活動のノウハウについて講義していただきます。

※修了要件単位としてはカウントされません

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式												
KA40A401		経営学(The Basic business Management)						対面												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	1,2	経済学研究科 博士前期課程	前期	火7	氏名 藤原 直樹 E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675														
授業の概要	大学院で経営学関連科目を履修する際に最低限必要となる経営学の基礎的知識を身につけることをねらいとしています。																			
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
目標1	経営学関連の科目において、講義内容を理解し、ディスカッションに加わることができるように目指します。																			
目標2																				
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	マニファクチュアの重要性																			
2	分業とは何か																			
3	分業とは何か																			
4	分業とは何か																			
5	協業の展開																			
6	協業の展開																			
7	協業の展開																			
8	協業の展開																			
9	補論.経済学(マルクス経済学)の基本概念																			
10	補論.経済学(マルクス経済学)の基本概念																			
11	管理という概念																			
12	管理という概念																			
13	管理という概念																			
14	総括																			
15	総括																			
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					体系的な理解を心がけてください。					工夫 その 他の	体系的な講義を展開します。								
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	テキストの精読(30h)。																		
	事後 学修	テキストの確認(15h)。																		
教科書	アダム・スミス『国富論』第1巻、中公文庫 カール・マルクス『新版 資本論 3』(第一巻 第三分冊)、新日本出版社																			
参考書	適宜、講義中に示します。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	授業中の議論の内容	50%																		
	報告・レポートの内容	50%																		
注意事項	この講義は学部等で経営学関係科目を履修したことがない大学院生を対象にしています。																			
備考																				
リンク	URL																			

※修了要件単位としてはカウントされません

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
KA40A400		経済学(The Basic Economics)						対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1	経済学研究科 博士前期課程	前期	月7	氏名 高見 博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674											
授業の概要	経済学の基礎をマスターしていない社会人に対して、ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎を講義する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 経済学の基礎をマスターする。																	
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 経済学とは																	
2 分業の利益																	
3 需要と供給																	
4 価格メカニズム																	
5 市場の効率性																	
6 市場の失敗																	
7 市場の限界																	
8 労働市場																	
9 GDPとは																	
10 GDPの決定要因																	
11 消費と投資																	
12 貨幣と金融																	
13 政府の役割																	
14 外国貿易と為替レート																	
15 経済成長																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	・毎回、理解度を確認する「小レポート」を実施します。 ・「小レポート」の用紙に、講義内容を振り返るため毎回の講義のキーワードと講義内容についての質問を記載し提出してもらい、次回以降の講義で回答します。					工夫	その他の									
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキストの予習(1回 2h)															
	事後学修	練習問題などによる理解の確認(1回 1h)															
教科書	『1からの経済学』中谷武・中村保 編著(碩学舎, 2010年) ISBN 9784502680809.																
参考書	講義中の議論とレポートを総合的に評価する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート	100%															
注意事項	経済学のバックボーンがなく、経済学の入門科目「初級マクロ経済学」「初級ミクロ経済学」を履修出来ない社会人学生を中心に講義を行う。																
備考																	
リンク																	
	URL																